

嗅覚の活性化を目的としたリハビリ的アプローチの実践 ～意識して香りを嗅ぐ習慣化に向けて～



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科

作業療法コース 教授

関 一彦 Seki Kazuhiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 嗅覚障害・嗅神経細胞・高齢者・アルツハイマー病 (AD)・パーキンソン病 (PD)



研究の概要

人を含む自然界の多種多様な生物において、嗅覚は重要な機能、感覚器官の一つである。人の嗅覚は、先行研究やわれわれの研究からも AD や PD に限らず前期高齢者となる前から段階的に低下することが分かった。ほとんどは低下を自覚しておらず、適切な対応のないまま放置される傾向にある。これは、機能低下をメガネや補聴器といった代替品で対応される視覚や聴覚との差をみれば明らかである。理由としては、表面的には困っていないからと言える。一方、Hummel の嗅覚刺激法 (2009) に代表される様に、嗅神経細胞の再生や改善には意識して香りを嗅ぐ行為が重要であることを多くの研究者が報告している。

しかし、研究者自身の臨床経験から、言葉による働きかけなどでは意識して香りを嗅ぐことの習慣化や生活の中での自然な行為・継続性には結びつきにくいことが分かってきた。本研究では、意識して香りを嗅ぐ活動として遊び的要素を伴った「香カルタ」を導入し、普段の生活の中での自然に香りを嗅ぐ行為の定着を目指している。現在、研究先の複数の病院で、一部の利用者や患者を対象に、治療・訓練の空いた時間を利用する形で無理なく継続的にこなされている。

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 12: つくる責任 つかう責任

香カルタ (香りとカードのマッチング)

～意識して嗅ぐ遊びを通した嗅覚のトレーニング～

回復期リハ



通所リハ



香カルタ
(手製カード)

調味料入れ(ステンレス容器)&3Dprinter 作成ガード



調味料入れ (ステンレス容器)



※図は第 59 回日本 OT 学会発表演題から転用

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

生活関連動作に深く関わる作業療法(士)は、嗅覚の低下が単なる機能低下に収まらず、人の生活や行動に対して想像以上に深刻な問題を引き起こす可能性があることを理解しなければならない。しかし、養成教育や臨床現場での具体的な取り組みは乏しく、引き続き学会や研究会、論文投稿を通して粘り強く啓発し是正したい。一方、作業療法は、遊び的要素も多く嗅神経細胞の再生促進につながる治療活動の構築が比較的容易な特徴を持っている。これまで柳川市、旭市、市原市、帝京平成スポーツアカデミーなどでの公開講座や、東京都北区及び世田谷区の認知症カフェ計7施設において嗅覚障害に対する啓発的講演や簡単な調査を継続してきた。今後は、「香カルタ」の実践施設を増やす努力とともに自治体での講演やデモ体験のもとその普及活動につなげたい。そうした活動が、日頃から意識して香りを嗅ぐ習慣化や健康意識の向上に寄与し高齢者の医療費削減に貢献できる可能性がある。それに賛同する病院や施設、自治体の参加や協力をお願いしたい。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「嗅覚を意識したリハビリアプローチの現状と課題及び必要性」
- ・「養成教育での嗅覚関連教育強化による臨床実践への効果と期待」
- ・「Awareness and reality of decreased sense of smell in the elderly -Towards the problem and rehabilitation approach -」